

《担当者名》柳生 一自 林 麻子（予ゼ）

【概要】

小児科学は幅広く周産期、出生から思春期に至るまでを対象とする医学である。小児は成人とは異なり、さまざまな体の成長に伴う変化があり、疾患も小児特有のものが多く、感染症などの外部からの侵襲、遺伝的要因などの病因や病態生理を理解し、子どもに関わる現場で活かせる知識を身につけることが求められる。

【学修目標】

医療従事者として、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。

出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知的発達のマイルストーンが説明できる。

小児の栄養・バイタルサインが説明できる。

周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。

先天奇形・染色体異常が説明できる。

小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。

小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。

小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。

小児独特の腎臓疾患が説明できる。

小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。

自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・知的能力障害・限局性学習症が説明できる。

児童虐待の特徴や対応が説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	成長・発達・栄養	小児の成長・発達・成長の評価、栄養、バイタルサインについて学ぶ。	柳生 一自
2	新生児疾患	新生児仮死・呼吸障害について学ぶ。	柳生 一自
3	先天異常	染色体異常・先天性奇形について学ぶ。	柳生 一自
4	呼吸器疾患	肺炎、気管支炎など呼吸器疾患について学ぶ。	林 麻子
5	消化器疾患	胃腸炎、腸重積など消化器疾患について学ぶ。	柳生 一自
6	循環器疾患	胎児循環・先天性心奇形など循環器疾患について学ぶ。	柳生 一自
7	内分泌・代謝性疾患	小児の糖尿病・低身長・思春期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症など内分泌・代謝性疾患について学ぶ。	柳生 一自
8	腎疾患・尿路系疾患	小児の腎疾患、先天性の腎・尿路系異常について学ぶ。	林 麻子
9	免疫異常・アレルギー性疾患	気管支喘息・アトピー性皮膚炎など免疫異常・アレルギー性疾患について学ぶ。	柳生 一自
10	感染症	ウイルス感染症・細菌感染症・予防接種について学ぶ。	林 麻子
11	感覚器疾患	耳鼻疾患、眼疾患について学ぶ。	柳生 一自
12	血液疾患	白血病・出血性疾患・小児の悪性腫瘍について学ぶ。	柳生 一自
13	皮膚・運動器疾患	皮膚疾患・骨折・虐待について学ぶ。	柳生 一自
14	脳神経疾患	てんかん・髄膜炎・脳性麻痺について学ぶ。	柳生 一自
15	神経筋疾患	筋疾患・神経発達症について学ぶ。	柳生 一自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

マークシート試験 100%。

**【教科書】**

五十嵐 隆、他：『小児看護ケアマニュアル』 中山書店 2015年

**【参考書】**

医療情報科学研究所 編：『病気がみえるvol.15小児科』 メディックメディア 2022年

白木和夫 他：『ナースとコメディカルのための小児科学』 小児医事出版社 2014年

**【備考】**

Google FormやGoogle Classroom を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

**【学修の準備】**

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目について再度ノートなどに整理すること。(80分)

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

DP2. 社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

柳生 一自（医師、公認心理師）、林 麻子（医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。